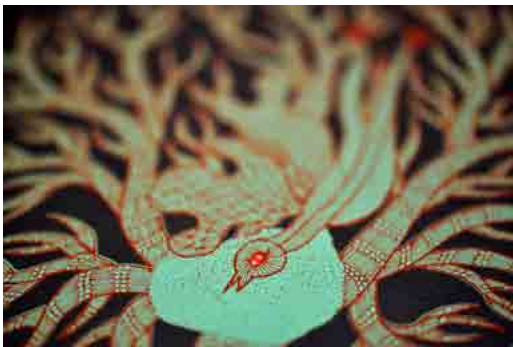


ゴンド民族の芸術家の手になる『夜の木』。かつて土間や壁に描かれていた民族画が原点になっている



『夜の木』を印刷する職人たち。神話的な世界観を表すのに、シルクスクリーンという版画の印刷技法が選ばれた



印刷機械では表現できない深い色合いと質感。自然物をモチーフにした図柄や精緻なパターンがていねいに描き込まれている



ギーター・ウォルフさん(左)とV・ギーターさん。二人は80年代のフェミニズム運動のなかで知り合った。教育や労働、ジェンダーなど、出版社の枠に収まらない社会的な問題にも取り組む

もっと地球ギャラリー

日本で発見!

世界で愛される ハンドメイドの絵本

写真提供 ● タムラ堂 文 ● 大谷徹 (編集部)

南 インドのチェンナイにある出版社「タラボックス」は、2006年に出版した『The Night Life of Trees (邦題: 夜の木)』で世界中の注目を集めた。ハンドメイドによる温かい質感や、動植物をかたどったプリミティブな図柄は多くの人々を惹きつけている。

創設者のギーター・ウォルフさんとV・ギーターさんは世界中から作家を発掘し、時にはともに生活をしながら、対話を重ねて企画を練っていく。『夜の木』は、中央インドに暮らす先住民の下を何度も訪ね、彼らの伝承を蒐めてつくられた。関

わる人々と良い関係を築くことが本の質につながると信じ、小さな規模でじっくりと本をつくる。増刷の場合も、納品に半年以上かかるその仕事ぶりは、合理性を求める姿勢とは真逆だ。

彼女たちは自分たちと作家や職人たちとの関係を「フェアトレード」と表現する。画家には著作権の概念を理解してもらい、貧しい若者には職能を授け、正当な対価を支払う。タラボックスの本はインド社会で弱い立場にある彼らが素晴らしい技能を持つ人々であることを世界に知らしめている。



『太陽と月10人のアーティストによるインドの民族の物語』(タムラ堂)

日本語版もすべて現地で手づくりされている。2017年刊行。初版は2千部のみ刷られ現在品切れ。重版は2019年の初頭を予定している

タムラ堂

『夜の木』など絵本の出版を中心に活動中

<https://www.tamura-do.com/>